

特集

三好市地域おこし協力隊 二期生が残したものの



三好市では平成23年度、地域づくりに関心をもつ都市部の若者が移住し、三好市で住民とともに地域づくりに参加する、地域おこし協力隊制度を開始しました。

地域おこし協力隊は、地域住民と連携して地域資源を見直し、地域づくりを持続的にできる仕組み作りを目指して、市内各地で活動をしています。

このたび、平成25年7月から活動を開始した2期生4名が3年間の任期を終えるにあたり、活動を通じて得たものや地域の現状、今後の地域づくりへの関わりなどについて報告します。

地域おこし協力隊 活動報告会を開催します

移住者などの新たな担い手との連携による地域づくりの参考とするため、協力隊2期生の活動経過の振り返りと、意見交換を行います。

※ 事前申し込みが必要です。電話または、メールで、①氏名、②所属、③連絡先をお知らせください。

【日時】 3月16日(水) 15時～

【場所】 三好市役所 第1会議室

【お問い合わせ先】 三好市役所 地域振興課

(☎ 72-7649、Eメール chiikishinkou@city.tokushima-miyoshi.lg.jp)

こちらに来てからの年月は気付きと学びに満ち、濃密でした。都会に生まれ、都会で育ち、都会でしか働いたことがない私に、念願の田舎暮らしの機会を初めて与えてくれた三好市といつも活動への協力を惜しまなかった地域の皆さまに心から感謝しています。

西山の元気なじいやんたちと体験プログラムを実施

赴任した年の冬、西山集落の元気なじいやんグループが春から米づくり体験をして、集落で人が交流できるようにしたいと考えているという話を知り、関わることになりました。田植えから刈り取りまで、1年を通して親子で米作り体験をするプログラムで、今年度はリピーターさんもでき、市外・県外からも毎回、100名近い参加者が集うようになりました。山の上の集落に人が集う流れができたものの、美しい集落の維持・管理に大変な労力が必要なことを知るにつれて、やはり継続的な活動のために、何か集落にきちんとお金が落ちるシステムが欲しいと思い、目をつけたのがたかきびほうきでした。

たかきびを復活させて、ほうきを作る

昔はこの家でも作っていたたかきびほうき。今は、作れる人はもちろん、たかきび自体、作る人がいなくなっていました。昔、「雑穀街道」と呼ばれた祖谷でも作る人がほとんどいない状態でした。すると、いつも米づくり体験でお世話になっていた西山の森脇さんが、たかきびほうきを作れることがわかり、種を入手して西山で作ることにしました。このたかきびを使い、「あわこい」のプログラムで、たかきびほうき作り体験を開催しました。ほうき作り体験の反応もよかったのですが、たかきびほうき自体もツアー客などに反応がよく、今後、サイズやデザインを工夫して商品化を模索したいと考えています。

情報発信フリーペーパー『みよしの肴』を刊行

2年目の終わりから、これまでの活動の中で出会ってきたもの…。集落の暮らしや知恵、人、食、風景などをもっと外の人に知ってもらおうと同時に形に残しておきたいと考えるようになり、前職でデザインや編集の仕事に携わってきたことを生かし、イラストによる情報発信フリーペーパー『みよしの肴』を刊行しました。昨年4月に創刊号『山暮らしの知恵と技』でかすら橋を取り上げ、6月はラフティングと大歩危小歩危峡、8月は阿波踊りと伝統芸能をテーマに刊行してきました。当初、このにし阿波という地域の暮らしを知らない市外・県外の方に向けて情報発信をと思い、製作していましたが、刊行してみると、地元の方からも知らなかったと感想をいただき、意外に思いました。

今後について

デザインやイラストなどによるビジュアル面での協力や情報発信、イベント・体験プログラムの企画・実施による集落と外の人の交流のしくみ作り、たかきびほうきや地域の食材を使ったスイーツなどお土産品開発などを中心に活動してきましたが、今後も継続してこのような活動をしていく予定です。協力隊は卒業しますが、今後とも、どうぞよろしく願っています。



活動報告
地域おこし協力隊
肴倉 由佳
暮らしをテーマ
に情報発信



地域おこし協力隊
活動報告
合田 幸代
アートを通じて人とのデアイをつくる

3年前、15年間暮らしたイギリスからの帰国を考えていた頃に、偶然見つけた三好市の地域おこし協力隊の募集に、「何か自分にもできることがあるかもしれない」と思い応募しました。
2013年7月に出身地である三好市の地域おこし協力隊に着任、自分が20年間携わってきたアートを通じた地域振興を目指してきました。

デアイ・プロジェクトとして活動

主な活動としては、池田町出合にある旧出合小学校を拠点に、アーティスト・イン・レジデンス、タバコのパッケージに使われていた木版画の活用方法を探る版画復活プロジェクトとワークショップの開催などを、活動名をデアイ・プロジェクトとして活動してきました。他にも、池田町本町通りでアーティストとともに古民家を改修する池田ハウスプロジェクト、NPOマチトソラのメンバーとしてマチトソラ芸術祭などの活動を行ってきました。

三好の地域力に触れ面白い田舎を実感

皆さんに活動を支えていただきながら、JOIN（一般社団法人移住・交流推進機構）のホームページで「すごい地域おこしこの11人」の1人を選んでいただいたことをはじめ、学芸出版社から出版された「地域おこし協力隊日本を元気にする60人の挑戦」に寄稿させていただいたり、市内外で活動を発表する機会をいただいたりしました。これは私の活動が特別に面白いからではなく、他にももっと面白い活動を提案している人たちが他の自治体にいるはずです。ただ私にあったのは、やりたい活動の実現を助けてくれる三好市の地盤、地域力だと思います。そうでなければ、酒まつり、うだつマルシェ、妖怪祭り、案山子の里、辻のいろりなど、いろいろな地域で特色を生かした活動や事業ができるはずがありません。三好市は確かに田舎です。しかし「普通の田舎」ではなく、「面白い田舎」なのです。

多くの方に感謝

失敗もしながらの3年間でしたが、一緒に活動してくれた皆さま、陰日なたにさまざま形態で活動を助けてくださった方々、藤川谷の会、狸祭り実行委員会、なごち、うだつマルシェ実行委員会、NPOマチトソラの仲間たち、NPOちいおりトラスト、出合地区の皆さま、阿波池田商工会議所の皆さん、ご協力いただいた各小中高等学校の先生や生徒の皆さん、三好市教育委員会、三好市役所、特に地域振興課の皆さん、集落支援員さんとお世話になりお礼を伝えたい方々の名前は書きませんが、今まで暖かく広い心で活動にご理解、ご協力くださいまして、本当にありがとうございます。任期終了までどうぞよろしくお願いたします。また、任期終了以降も市内で活動を続けていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。



地域おこし協力隊
活動報告
渡邊 みどり
子どもたちとの触れ合いを大切に

三好で迎える3度目の冬はとりわけ雪が多く、高校まで暮らした北海道が懐かしく思い出されます。2013年7月に地域おこし協力隊として赴任し、2年9か月の任期をもうすぐ終えようとしています。徳島県どころか四国4県の位置さえる覚えで、来た当初は「なぜ三好に？」と問われるたび「何となく…」と自分でも明確な答えがわからないような状態でした。もちろん、今ははっきりと答えられますよ！

自然や人との触れ合いの大切さを伝えたい

そもそも、私がなぜ協力隊を志望したのか？取り立てて地域おこしに熱い思いを持っていた訳ではありません。教師として子どもたちと接するうちに、環境の変化や経験・体験機会の不足が気にかかるようになり、ゲーム機器やスマホが今や当たり前のものとなり、情報社会の中に生まれ育つ彼らの生活スタイルの変化は致し方ないことです。
しかし、自然や生身の人間との触れ合いを通して学ぶことがどれほど有用であるかを教えたい、そのためには私自身ももっと知識や経験を得なければと思ったからです。

協力隊の役割

地縁の一切ないヨソ者の1年目は、まずどこに何があるどんな人がいるのかを知ることだけで過ぎていきました。2年目、自分の望む活動を実現するには誰と繋がれば？資金はどうしよう？模索を重ねるうちにまた過ぎていきました。最終年度となる3年目、もはや悩んでいる間もなく一気に計画を押し進め、そして気が付けば年が明けていました。なかなか活動の趣旨が上手く伝わらず、私のやっていることは単なる自己満足でしかないのかなと…。いっぱい迷って、いっぱい悩んで、特に3年目などは毎日フルマラソンを走っているかのような身も心も過酷な日々でした。私は実際にマラソンをやるのですが、ゴールが見えるだけ走っている方が楽なのではと思えるほど(笑)。「地域の人キラキラしている。渡邊さんの活動を見ていて協力隊の役割が分かった」とずっと応援してくださった方からこの言葉をかけていただいたとき、私が一番やりたかったことが伝わったと嬉しくて涙が出ました。

新たなステップへ

ようやく活動の基盤が出来上がったところでの任期終了に「せめてあともう少しだけ…」と消化不良の想いを抱きつつ、春から新たなステップを踏むため三好での生活に終止符を打ちます。協力隊としてかけがえのない経験をさせていただいた皆さまに、この場を借りて心から感謝を申し上げます。「なぜ三好に？」それは「三好でステキな皆さまにたくさん出会ったためです！」本当にお世話になりました。



地域おこし協力隊
活動報告
大西 恵大朗
観光客との交流で地域を元気に

地域おこし協力隊として三好市にUターンしてきて、2年半近くが経過しました。任期中は本当にたくさんの方の協力に支えられました。お世話になった方々への感謝の気持ちを述べるとともに、協力隊として過ごしてきた間に感じたことや思ったことをここで伝えられたらと思います。

外国人観光客が何を求めているのか

僕は観光課に所属する観光地域おこし協力隊として三好市に赴任してきました。三好市でも外国人観光客が増加していると聞き、自分が三好市で生活していた頃は見かけることはほとんどなかったので赴任してきて大歩危、祖谷地区を訪れたときに驚いたのを覚えています。どうして増えてきているのか、何を魅力に感じているのか、というところから活動を始めていきました。直接彼らに声をかけて観光案内や、話を聞いているうちに感じたのが、施設や場所を訪れるだけでなく、そこでどんな経験をしたのかというのが重要だと考えていること。そしてこの地域に暮らす人々の生活にとっても興味を持っており、地元の人との交流を求めているという事です。

英語教室を開催

集落での暮らしなどを観光資源にこれから活用していくこととしている「一般社団法人そらの郷」と関わり、その中で外国人を含め多くの方に三好市を案内する機会をいただきました。自分が感じた三好市の魅力を伝える事、ツアーの中に集落の方と交流ができるような内容をさせてもらったりと、色々な事に挑戦させてもらうことも貴重な経験を積ませていただきました。また、祖谷地区で外国人ばかりのツアー客を受け入れたとき、落合集落の方は、最初外国人に抵抗のある方がほとんどでした。集落の中には古民家を改修して出来た宿泊施設もあり、日常的に観光客と触れ合う機会が多い所ですが、地域としての受け入れ環境は整っておらず、どのように接すればいいのか分からないと困っている方がたくさんいました。そんな集落の方々と一緒にどのようにもてなすか、来た時にどんなことをすればいいのかを一緒に考えていくうちに次第に自信を持って楽しく接することができるようになり、もっと積極的にコミュニケーションを取ればという声をいただいて、集落内に交流スペース兼食堂としてオープンしたなごちで英語教室を開催するまでになり、定期的に皆さんと一緒に訪れた方へのおもてなしや交流を考えるようになりました。

地域の魅力を伝える

地域での課題を集落の方と一緒に考え行動してきた結果、任期終了後も三好市でご縁をいただき、今まで続けていた活動も生かすことができそうです。協力隊としての任期は終わりますが、これからも三好市を訪れた方に地域の魅力を伝える役割が担えればと思います。今後ともよろしくお願いたします。